

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ。

アトムは、ロボットの個人名で、人間の友達で家族も持っていて、人と全く同じ設定になっていますが、日本人はそれに全く違和感を感じません。

日本人は森羅万象全てに人格、霊性を感じる特徴があり、人が特別ではないという潜在的認識が大きな理由と思われる。

日本の自動車メーカーが、アメリカで車を作り始めたとき、日本人スタッフが溶接用のロボットアームに百恵ちゃん、淳子ちゃん、と名前をつけて大切に扱っているのを現地の職員が見て驚いていることが記録されています。

日本人にとって、機械に愛着をもって名前をつけたり、木や石などの自然物にも魂があるがごとく扱うということに違和感がありませんが、欧米の方にとっては理解が困難なことです。

キリスト教圏の欧米の方達は、旧約聖書創世記第1章に書かれてあるとおり、神によってつくられた最上の人間が、すべての自然物を支配し多いに栄えよ、とされているとおり、人間を頂点とした垂直概念を持っており、ロボットなどの機械に対して、あくまでも人間を補佐する道具と認識し、R2D2、C3POなどの固体番号や人のような名前がついていても製品名としての名前がほとんどで、日本人のように友達のような人格を持つがごとく個別の名前がつけられることはほとんどありません。

これに対して、日本人の歴史は有史以前、自然災害とともに、温暖多湿な食料の豊富な環境が1万年以上続いたことが大きな理由と思われるが、自然を畏怖し、感謝、共存する、森羅万象すべてに霊性を感じる特徴から、物や自然物に対して物以上の存在として認識する、人が特別ではないという水平的概念を持つようになりました。

物を作る職人というと、ドイツのマイスター制度と日本の職人が頭に浮かびますが、本質が全く異なるものです。ドイツの場合はあくまでも専門職としての資格制度で、高い技術を維持すると共に、開業独占を目的に作られました。ですから、資格取得後の研鑽は関係がありません。

これに対して、日本の多くの職人は資格の問題ではなく、さらなる高みを目指して、物作りをとおして人としての研鑽が行われている実態があります。

単に物を作るのではなく、自らの手によるものが、さらに良いものがあるはずだとする確信があり、終わりのない研鑽がおこなわれています。

これは、森羅万象全てに人格を感じるが如く、自らの手で作られるものに物を超えた心性や愛着を感じる日本人の特徴が大きく影響し、made in japan の質が高い理由になっています。

